

生活の中の課題を見付け、解決する力の育成

— 習得した知識や技能を生活に生かす力を育てる学習指導の工夫 —

実践者 土手 佳代

愛媛大学研究パートナー 竹下 浩子, 藤田 昌子

第1章 はじめに

研究テーマ設定の理由

技術・家庭科の目標は、よりよい生活や持続可能な社会の構築の礎となる資質・能力の育成である。そのためには生徒自らが生活に関心を持ち、生活する上で直面する様々な問題の解決に向けて、知識及び技能を活用して解決方法を考えたり、自分なりの新しい方法を創造したりするなど、学んだことを実際の生活の中で生かすことができる実践力を育てることが重要である。しかし、生徒にとって現在の生活が当たり前であって、問題とを感じる機会は少ない。さらに、便利で快適なものに囲まれた生活の中では、「よりよくしたい」「どうにかしたい」と思うこともあまりないのが実際である。生徒に、「生活の中の課題を見付け、解決する力」を育てるためには、実生活につながる題材や学びの場の設定などの学習指導の工夫が不可欠である。その上で、生徒が実感を持って学び、習得した知識や技能を生活に生かすことができる力を育てたいと考え、本テーマを設定した。

第2章 研究の実際

1 研究の内容及び方法

(1) 学びを生活につなぐ学習過程の工夫

学習題材の始めに、イメージマップを書かせたり、題材の役割や自分の生活、行動などを振り返らせたりして、自分と題材をつなげた上で生活の問題に気付かせ、課題を立てさせた。課題解決に必要な知識・技能の習得の場面[生徒を育てる段階]、問題解決的な学習（工夫・活用）の場面[生徒が育つ段階]、自己の課題発見と解決に向けて実践計画を立てる場面[生徒が伸びる段階]を設定し、学んだ知識や技術が有効に取り入れられるように学習過程を工夫した。この学習過程は、これまでの研究でも取り組んできた内容である。また、高齢者体験などの体験活動を多く取り入れ、実感を持った理解につながるよう工夫した。学びログ（OPP シート）を活用することで、自分の課題解決に向けての手立てとするとともに、学びの変容を見取れるようにした。家庭でのよりよい実践につなげさせるため、学習の後に、課題解決に向けて実践方法を計画・検討させた。

(2) 状況（場面）設定の工夫

題材を通して共通のモデル家族とその住まいを設定し、題材を展開した。モデル家族の中学生や高齢者、幼児などの視点に立たせて、その家族の住まいについて課題解決的な学習やパフォーマンス課題に取り組ませた。様々な視点に立って課題解決に取り組むことによって、単なる知識・技能の活用だけでなく、他者、自然、地域・社会との共生に向けた解決方法を導き、深い学び合いになるようにした。また、パフォーマンス課題については、学んだ知識や知恵を活用させて論理的に思考し判断させながら問題解決をさせた。

2 研究の実際

(1) 指導計画

ア 題材名

安全で快適な住まい（第2学年）

イ 題材目標

- 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能や、家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解することができる。 「知識及び技能」
- 家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践案を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決することができる。 「思考、判断、表現力等」
- 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。 「学びに向かう力、人間性等」

ウ 重点目標

<本質的な問い>

家族が安全で快適に住まうために、どのような工夫が必要だろう。

<永続的な理解>

住まいには自然災害などから命を守る、心身の健康を維持する等の働きがあり、人間らしく生き、家族の生命と生活を守る器として大変重要な役割がある。そのため、住まいは住まう人にとって安全であるとともに、快適である必要があり、家族や社会の変化に合わせて、よりよい住空間に整えていくことが大切である。また、大地震や自然災害などから身を守るためには、安全な住まい方や地域、環境とのつながりを意識した住まい方が不可欠である。

エ 指導計画（全11時間）

次	時数	ねらい・学習内容	重点	記録	評価規準（評価方法）
1	1	・住まいの役割と住空間の機能について知り、よりよい住生活について考える。	知 思		・住まいの基本的な機能について理解し、よりよい住生活について問題を見いだして課題を設定している。 (ワークシート、OPPシート)
	1	・家族と住空間の関わりや、和式と洋式の住空間の特徴を理解できる。	知		・家族と住空間の関わりや、和式と洋式の住空間の特徴を理解している。 (ワークシート)
2	1	・家族の安全を考えた家庭内事故の防ぎ方や室内環境の整え方について理解し、安全な住空間を整えることが適切に工夫できる。	知 思	○	・家族の立場に立って家庭内事故を予測し、安全な室内環境の整え方について理解しているとともに、安全な住空間になるよう工夫している。 (ワークシート)
	1	・幼児や高齢者の疑似体験を通して身体的特徴を理解し、家庭内事故の防ぎ方やよりよい関わり方を実践しようとしている。	知 態	○	・幼児や高齢者の身体的特徴を理解し、事故を想定して具体的な対策を工夫したり、よりよい関わり方を実践しようとしていたりしている。 (ワークシート、行動観察)
	2	・自然災害に備えるための住空間の整え方や家族に合わせた備えの必要性について理解し、適切に工夫できる。	知 思		・自然災害(地震)による被害を想定し、家族の安全を考えた住空間の整え方を理解するとともに、家具の配置や固定、非常持ち出し品や備蓄などの災害への備えなどの住まい方を工夫している。 (ワークシート)
3	2 概	パフォーマンス課題 ・祖母の寝室を安全で快適な空間になるよう適切に工夫し、論理的に表現できる。	知 思 態	○ ○ ○	・高齢者の身体的な特徴や、地震対策について理解し安全で快適な住空間の整え方について解決策を構想できる。 ・計画を論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 (パフォーマンス課題)
	3	課題と実践① 課題設定・調査 課題と実践② 計画・立案・見直し 課題と実践③ 実践発表(実践は家庭で)	思 態	○ ○	・自分や我が家の住空間の整え方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践案を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題解決に向けて工夫している。 ・課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 (実践レポート)

(2) 指導の実際(8/11 時間)

ア 主題

安全で快適に住まうためにはどのような工夫が必要だろう

イ ねらい

○課題解決に向けて計画を立てたことを論理的に表現することができる。

○住居の機能と安全な住まい方について、住生活の課題の解決に取り組もうとしている。

ウ 展開

学習活動(形態)	時間	学 習 の 流 れ			○指導の工夫 ◎評価規準(方法)					
		分かる	考える	実行する						
1 前時までの学習を振り返り、学習課題の確認をした。(全体)	3	前時を振り返った。 安全で快適に住まうためにはどのような工夫が必要だろう			○共有しやすくするために、パフォーマンス課題をロイロノートに提出させた。 ○評価の観点を示すことで、焦点を絞って論理的に発表したり、相互評価を客観的にしたりできるようにした。 ○発表は家族会議で家族に提案するという状況設定にすることで、より相手意識を持たせたり、質疑応答したりしやすくした。 ○相互評価することで、それぞれの取組の良さを認めたり、改善につなげたりした。 ◎課題解決に向けて、計画を立てたことを論理的に表現している。 (行動観察, レポート) ◎住居の機能と安全な住まい方について、住生活の課題の解決に取り組もうとしている。 (レポート, OPP シート)					
2 パフォーマンス課題を発表し、相互評価をした。(グループ)	30 (20)	パフォーマンス課題「祖母の寝室づくり計画」の発表と相互評価を行った。(家族会議) <table><tr><th>家庭内事故対策</th><th>地震対策</th><th>快適性の向上</th></tr><tr><td>・ベッドで寝起きを楽にする。 ・椅子を置いて、立ち座りを楽にする。 ・手すりを取り付けて安全に移動できる。 など</td><td>・タンスをL字金具で固定。 ・ベッド位置はエアコンの下を避ける。 ・強化ガラスや飛散防止フィルムを取り付ける。 など</td><td>・趣味に合わせて本棚を置いたり、庭に出入りしやすくしたりする。 ・杖を置く場所を確保する。 など</td></tr></table>				家庭内事故対策	地震対策	快適性の向上	・ベッドで寝起きを楽にする。 ・椅子を置いて、立ち座りを楽にする。 ・手すりを取り付けて安全に移動できる。 など	・タンスをL字金具で固定。 ・ベッド位置はエアコンの下を避ける。 ・強化ガラスや飛散防止フィルムを取り付ける。 など
家庭内事故対策	地震対策	快適性の向上								
・ベッドで寝起きを楽にする。 ・椅子を置いて、立ち座りを楽にする。 ・手すりを取り付けて安全に移動できる。 など	・タンスをL字金具で固定。 ・ベッド位置はエアコンの下を避ける。 ・強化ガラスや飛散防止フィルムを取り付ける。 など	・趣味に合わせて本棚を置いたり、庭に出入りしやすくしたりする。 ・杖を置く場所を確保する。 など								
										
家族会議(発表会)の様子 (全体)		(10)	相互評価とアドバイスを伝え合い、改善した。							
3 安全で快適な住空間の整え方についてまとめた。(個人)	10	安全で快適に住まうための工夫が分かった。								
4 本題材のまとめをした。(個人)	7	安全で快適に住まうために大切なことをまとめ、自身の生活の課題を考えた。 住生活の学習のまとめをした。								

(3) 生徒の学びの実際

ア 学びを生活につなぐ学習過程の工夫

(ア) 三つの段階[生徒を育てる段階、生徒が育つ段階、生徒が伸びる段階]

1 次の生徒を育てる段階の導入では、「住まい」のイメージマップを作成し、「本質的な問い」に対する解や自分の家庭の課題を立てさせた。イメージマップでは、「台所」「エアコン」「温かい」などの場所やものなどの快適性に関する記述や「家族」「団らん」といった家族が住まう場としての記述が多くあげられたが、家庭内事故や災害などの安全に関する記述は少なかった。

2 次の生徒が育つ段階では、「健康・快適・安全」の見方・考え方に焦点を当てて家庭内事故や

災害の問題解決学習を行い、体験的な活動も多く取り入れた。高齢者体験を通して家庭内事故につながる原因や生活の中の困難に気付かせたり、災害時の生活を想定させてラップや新聞紙などの使い方を工夫させたりした。

3次の生徒が伸びる段階では、パフォーマンス課題でこれまでの学習を活用するとともに、自分の住まいに関する課題解決実践に取り組んでいく予定である。



授業の様子

(イ) 学びログ (OPP シート) の活用

一昨年度より、生徒に学習の見通しを持たせ、その過程を振り返らせる OPP シートを作成し、記録させた。生徒の学びの状態を把握して指導に役立てたり生徒の変容を見取ったりできるようにした。今年度は、他教科と合わせて「学びログ」と名前を変え、本質的な問いについて題材の始めと終わりに書かせたり、題材の始めに自分の課題を考えさせたりする項目を追加した。生徒自らが変容に気付いたり、課題解決に向けてのステップを実感したりできるようにした(資料1)。

1 学習のめあて - 生活と住空間の関わり、住居の基本的な機能、家庭内事故や自然災害などに備えた家族の安全を考えた住空間の整え方を理解している。 - 知識・技能を活用して、より安全な住空間の整え方について自分の問題を見付けて課題を設定し、解決に向けて工夫できる。 - 安全な住空間の実現に向けて関心を持ち、課題の解決に取り組んだり、改善したりして、工夫・創造し、実践しようとしている。	【目標に対する振り返り】 - 家庭内事故や自然災害は子供や高齢者の危険が多い。お風呂場の鍵をかけることや、安全器具のものを併せて身の回りの危険から身を守るための工夫が分かった。 - 私は、危険に傾く方向で寝ていたが、学習後は窓から遠いところへ寝るようになった。また、非常用持ち出しボックスや避難所を家族で調べ確認した。足りないものや状況の変化があるのを確認し、防災グッズ課題はこれまでの学習を活かして、お風呂場が安全にくるまで避難所を調べた。また、自分の家と重ねて、お風呂を考えた。	2 題材計画 <table border="1"> <tr><td>1</td><td>住まいの役割</td></tr> <tr><td>2</td><td>住まいの空間</td></tr> <tr><td>3</td><td>住まいの危険</td></tr> <tr><td>4</td><td>安全な住まい①</td></tr> <tr><td>5</td><td>安全な住まい②</td></tr> <tr><td>6</td><td>持続可能な住生活</td></tr> <tr><td>7</td><td>パフォーマンス課題</td></tr> <tr><td>8</td><td>我が家の住まいの課題解決①</td></tr> <tr><td>9</td><td>我が家の住まいの課題解決②</td></tr> <tr><td>10</td><td>我が家の住まいの課題解決③</td></tr> </table>	1	住まいの役割	2	住まいの空間	3	住まいの危険	4	安全な住まい①	5	安全な住まい②	6	持続可能な住生活	7	パフォーマンス課題	8	我が家の住まいの課題解決①	9	我が家の住まいの課題解決②	10	我が家の住まいの課題解決③				
1	住まいの役割																									
2	住まいの空間																									
3	住まいの危険																									
4	安全な住まい①																									
5	安全な住まい②																									
6	持続可能な住生活																									
7	パフォーマンス課題																									
8	我が家の住まいの課題解決①																									
9	我が家の住まいの課題解決②																									
10	我が家の住まいの課題解決③																									
3 題材を貫く「本質的な問い」の解決 【本質的な問い】家族が安全で快適に住まうためにどのような工夫が必要だろうか？ 【学習前の考え】 - 適切な温度調節を行う。(寒すぎ、温かすぎない)。 - 火災対策 - けんがとるべくしない。 - 家庭用電器などお金のことも考え、自然とふれあえるようにする。 【学習後の考え】 家族が安全で快適に住まうには、家には様々な年齢や身体を持つ人々が入り出るので、バリアフリーにして、いつでも使いやすく住みやすいようにする必要がある。また、万が一に備えて地震対策など日本にふさわしい工夫をして、住まうとよい。	4 パフォーマンス課題 祖母が安全・快適に過ごせる寝室作りをしよう。 ↑ (目標)																									
5 学びの記録 【学習の前に】 自分の生活をふり返ってみよう 【問題】 - 災害セットはあるけれど家具固定をしていない。 - 私が親とよくけんかをする。 - 白いタイルが庭にあるので照り返しが暑い。 - 壁がずれてきている。 【私の課題】 - 自分の部屋の物がなかなか捨てられない。	① 本時の授業で一番大切なこと。(題材の目標や本質的な問いに関すること) ② 自分の課題解決や次時に向けての課題、疑問、目標など <table border="1"> <tr> <th>1時間目</th> <th>5月</th> <th>？日(？)</th> </tr> <tr> <td>課題</td> <td colspan="2">住まいにどんな役割があるのか。</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td colspan="2">住まいには人々を安心させる役割があることを知りました。しかし私はよくけんかをしてしまいます。それでは住まいの味がないので、なるべくけんかをしないようにします。</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td colspan="2">住まいの空間について、自分の家とイメージしながら考えよう。</td> </tr> </table>	1時間目	5月	？日(？)	課題	住まいにどんな役割があるのか。		①	住まいには人々を安心させる役割があることを知りました。しかし私はよくけんかをしてしまいます。それでは住まいの味がないので、なるべくけんかをしないようにします。		②	住まいの空間について、自分の家とイメージしながら考えよう。		<table border="1"> <tr> <th>2時間目</th> <th>5月</th> <th>31日(月)</th> </tr> <tr> <td>課題</td> <td colspan="2">住まいの空間にはどんなものがあるのか。</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td colspan="2">住まいには、快適にくらすための条件がある。(例:空調、テレビなど) また、和式・洋式があり、年齢や好みによって変える。</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td colspan="2">自分の家をより安全にするために、学ぼう。そして実践しよう。</td> </tr> </table>	2時間目	5月	31日(月)	課題	住まいの空間にはどんなものがあるのか。		①	住まいには、快適にくらすための条件がある。(例:空調、テレビなど) また、和式・洋式があり、年齢や好みによって変える。		②	自分の家をより安全にするために、学ぼう。そして実践しよう。	
1時間目	5月	？日(？)																								
課題	住まいにどんな役割があるのか。																									
①	住まいには人々を安心させる役割があることを知りました。しかし私はよくけんかをしてしまいます。それでは住まいの味がないので、なるべくけんかをしないようにします。																									
②	住まいの空間について、自分の家とイメージしながら考えよう。																									
2時間目	5月	31日(月)																								
課題	住まいの空間にはどんなものがあるのか。																									
①	住まいには、快適にくらすための条件がある。(例:空調、テレビなど) また、和式・洋式があり、年齢や好みによって変える。																									
②	自分の家をより安全にするために、学ぼう。そして実践しよう。																									

資料1 学びログ (OPP シート)

住生活の題材の始めの本質的な問いの解は、清掃や整理整頓、温度などの「健康・快適」、家族関係や団らん等の「協力・協働」の見方・考え方が多く、「安全」の見方・考え方について十分ではなかった。学習後、本質的な問いの解には、家庭内事故や防災に関する記述がほとんどになり、「健康・快適・安全」の見方・考え方や具体的な住空間の整え方について定着が見られた。

一方、食生活の題材の OPP シートの本質的な問いの解は、最初の段階から詳しく、社会的な視点から書いているものが多かった。学習後の解は、より身近な視点や具体的な方策について書く傾向が強くなった。

イ 状況(場面)設定の工夫

モデル家族とその住まいを用いた問題解決的な学習を積み重ねた。モデル家族「愛田さん」は1年時の食生活や家族生活の学習でも登場しており、生徒にとっては馴染みのある家族である。モデル住まいは、教育実習生と協力して家庭内事故や災害時の危機が起こりうるプランを作成した。場所は学校近辺とした。愛田さんの住まいの間取り図をロイロノートに取り込み、間取り図

[illegible]

2. 愛田家の災害対策について考えよう。

○愛田家でどのような自然災害が心配？

大雨 → 川の氾濫

非常用

○愛田家の間取り図を見ながら、非常用持ち出し袋とコンテナ2つを置く場所を考えよう！

	どこに置く？	その理由とは？
非常用持ち出し袋 (4つ)	お婆あちゃん部屋 お田ん太の部屋 ババがところある部屋 リビング	いつでも地震がおきるかわからないので広い範囲におく。 また、災害時は慌てて動く事も大切で、災害時にどこへ逃げれば安全なのかを、親・お・おに知らせる。
コンテナ (2つ)	開放されているスペース (階段下のスペース)と リビング	クローゼットなどの扉などで閉める所は、地震の際にゆがて倒れやすい場所があるので、開放しているスペース。

3. 今日学んだことを踏まえて、自分の生活に必要な災害対策を考えよう。

私はお婆の部屋には自分の防災バックを災害対策として、食料は十分常備し避難場所を確保し、お田ん太は避難する事も大切だと思ってる。地震が来たらまずはお婆と自分の部屋へ避難し、自分の部屋を見守り、お田ん太の位置がババの向かいにあるので、地震が来た時に地震がきたらお婆と一緒でクガをするかもしれないので、位置も確認しお婆と一緒。

パフォーマンス課題については、祖母の身体的状況や趣味、最低限必要な家具等の条件を示した上で取り組ませた。ワークシートとロイロノート上のシートの使いやすいものを選択させて、生徒の実践しやすい方法を用いさせた(資料4)。

パフォーマンス課題(レポート)	その他の評価方法
あなたは愛田家のAさんです。祖母は転倒して右ひざを骨折し、手術のため入院中です。車庫部分を増築して祖母の寝室を作ることになりました。家庭科の学習を生かして、祖母の寝室プランを立て、家族会議で提案をします。退院後、祖母が安全で快適に過ごせるように、祖母の身体的特徴、趣味、南海トラフ巨大地震への対策などを考慮して寝室の計画を立てなさい。	○ワークシート、OPPシートの記述 ○実力テスト

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	高齢者の身体的な特徴や、地震対策について理解し、祖母の安全や <u>快適性</u> を考えた住空間の整え方や <u>将来について</u> も配慮した解決策を構想することができる。	計画を評価・改善し、論理的に表現するなどして、 <u>工夫の意図が明確に示されており</u> 、課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現に向けて、 <u>自分の生活と結び付けて</u> 課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
B	高齢者の身体的な特徴や、地震対策について理解し、祖母の安全を考えた住空間の整え方について解決策を構想することができる。	計画を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

Hand-drawn floor plan of a room with various furniture and annotations in Japanese:

- Top Left:** ① 壁に力を入れて地盤が固まり家具が倒れにくい ② 壁に力を入れて地盤が固まり家具が倒れにくい
- Top Right:** ③ 家具の固定 ④ 棚に力を入れて地盤が固まり家具が倒れにくい
- Center:** ⑤ 壁に力を入れて地盤が固まり家具が倒れにくい
- Bottom Left:** ⑥ 壁に力を入れて地盤が固まり家具が倒れにくい
- Bottom Center:** ⑦ 壁に力を入れて地盤が固まり家具が倒れにくい
- Bottom Right:** ⑧ 壁に力を入れて地盤が固まり家具が倒れにくい
- Right Side:** ⑨ 壁に力を入れて地盤が固まり家具が倒れにくい
- Far Right:** ⑩ 壁に力を入れて地盤が固まり家具が倒れにくい
- Far Bottom Right:** ⑪ 壁に力を入れて地盤が固まり家具が倒れにくい

145

特徴から理由を挙げて選択することができた。

自己評価及び相互評価では、資料5の評価項目を設定し、これまでの知識・技能の活用や実現性、思考・判断・表現等に係る評価をさせた。相互評価についても、評価の根拠が明確であり、家庭科の見方・考え方に基づくものであるか評価を行った。資料6は資料4の相互評価である。記述内容により、左からA、B、Cと評価した。

4 成果と課題 (○成果 ●課題)

(1) 学びを生活につなぐ学習過程の工夫

- 三つの段階で学びを広げていくことで、生徒が生活の中に問題を見付ける力やその解決に向けての意識化を図ることができた。
- 高齢者体験や幼児体験を通して、床に座る等の日常生活の困難さや視界の狭さなどを実感することで、実感を伴った学びとなり、その後の課題解決に生かすことができた。
- 学びログ (OPP シート) を工夫することで、生徒の変容がより見取りやすくなり、生徒自らも変容を実感することができた。
- 既習事項が多い題材についての本質的な問いの解は、始めは社会的な広い視点であったのが、学習後には具体的で身近なことが増え、自分に何ができるかを考えたより実践的な解となった。
- 生徒自らが問いを立て、本質的な問いを導き出し、課題解決に迫ることができるような課題設定のタイミングや方法などの工夫が必要である。
- 学びログ (OPP シート) の記入を負担に感じている生徒も多くいるので、いかに授業中に書き込む時間を捻出するか、また、どれだけ評価や指導に生かしていけるかが課題である。

(2) 状況(場面)設定の工夫

- モデル家族やその住まいを設定することで、課題をより身近に感じることができ、相手意識を持ったり、地域の災害の可能性などを考えたりしながら課題解決に取り組むことができた。
- 様々な題材で同じ家族で学習することで、様々な年齢や立場から家庭を考える機会となった。さらに、家族の成長や変化、家族との関わり方についても意識させることができた。

第3章 おわりに

今回の本質的な問いについては、題材の始めにイメージマップを使って、役割や問題を見付け、課題を立てているが、まだまだ生徒主体であるとは言えない。自らが問いを立て、本質的な問いを導き出し、課題解決に迫るような方策を練っていききたい。モデル家族については、消費生活や地域でも「愛田さん家」との関わりを持った問題解決的学習を研究していきたい。

評価については不安が残るところである。特に「学びに向かう力、人間力等」についての評価については、他教科とも連携しながら学びログ (OPP シート) の工夫や課題設定のタイミングなどの研究を深めていきたい。

参考文献

- ・西岡加名恵(2016)『資質・能力』を育てるパフォーマンス評価 明治図書
- ・筒井恭子(2021)「中学校技術・家庭科 家庭分野 資質・能力を育む学習指導と評価の工夫」東洋館出版社

評価項目	自己評価
①身体的特徴を配慮し、家庭内事故を防ぐ工夫ができている。	A B C
②趣味や生活スタイルを配慮した住空間の工夫ができている。	A B C
③災害を想定し、家具の配置や固定などの工夫ができている。	A B C
④実現化しやすく、将来についても考えた工夫ができている。	A B C
⑤改造計画の意図や根拠が明確で、論理的に表現できている。	A B C

資料5 パフォーマンス課題の評価項目

[より]	[より]	[より]
①②③④⑤ A A A A A 事故のことも考えて 和室にしたり、趣味 のことも考えて家具 加えたり、災害のことも 考えておいた。	①②③④⑤ A A A A A 使う家具の特徴 などが、細かい ところまで、わかり やすく説明していて よかった。	①②③④⑤ A A A A A 画力がすごい。 説明がていねい で、わかりやすかった。

資料6 パフォーマンス課題の相互評価例